

広報

県遊協

山形県遊技業協会
TEL 023-615-6922
FAX 023-615-6923
Eメール yamagata@zennichiyure.n.or.jp

★回収対象遊技機の取扱について

本年2月10日、日工組から第一次の「回収対象遊技機一覧表」が提示され、続いて3月2日第二次の「回収対象機一覧表」が提示されております。しかしながら、回収の期間、方法などが告知されず曖昧な部分がありますので、確認をお願いいたします。



①回収の日程について

警察庁では「可及的速やかに」としておりますが、日工組の新機種の提示は4月頃と推測されますので、そのころが一つの目安かと思われます。入替計画に沿ってなるべく早くということですが、

②対象機申請のニアミスの発生対応について

日工組の対象機提示は予告なしで行われますから、分かれぬままその対象機を入替申請することが今後とも考えられます。山形県では、第2次の際に実際にニアミスが発生しておりますが、その際は申請を撤回することになりますのでご理解頂きたい。他県では第一次から発生しているようです。

③保証書は日工組の通知以降は発行しない

対象機として通知のあった遊技機については、保証書を発行せず中古機として流通させないこととしているとのこと。中古機流通協議会も同じ判断だ。警察庁も各県警に同様の指示をしているようである。

④遊技機流通の健全化

製造業者の保証責任や、運送業者の選定基準規定などを新たに定めたが、この規定では製造業者が営業所設置の遊技機について厳格な点検確認をするとしている。営業者にとっては受忍の負担になります。健全化のために協力してください。

※第二次一覧表について

三洋物産のCRスーパー海物語IN沖縄3HMEなど11社17型式・八八、一〇四台が第二次分として提示されております。詳しくは第二次の「回収対象遊技機一覧表」をご覧ください。

●日工組の動きの把握が大事です

※全日遊連と日工組との間では、早急に話し合う課題が多数ありますが、その協議がなかなか進んでいません。両者の情報については、組合が把握次第お知らせしますので引き続き関心を持って対応していただきたいと思っております。 さて、去

る3月2日には、日工組から第二次の「回収対象遊技機一覧表」が公表されましたが、事前の通知はなく突然でありました。全日遊連では再三文書による申し入れなどを行い、文書による回答を求めています。皆様にお知らせしているとおり曖昧な回答が多くなっています。

日工組では、今後も第三次、四次と対象機の公表を行なうといわれており、対象機も今後益々増加していくものと思われま。

2月18日、全日遊連が行った回収対象機の無償交換の要望には「ご要望の無償交換につきましては出来かねますが十分努力し、対応に努めます」と曖昧に回答しており、具体的な回答はありませんでした。聞くところによるとホールに販売されている遊技機については、ホールごとに販売価格が異なるほか、結局のところ回収の保証問題は「販

社（メーカー）対ホール毎」になると考えられます。各ホールの担当者はしっかりと対応をお願いします。

◎平成28年度通常総会日程決まる

☆総会

とき 平成28年6月21日午後2時30分

ところ ホテル・メトロポリタン山形

▽総会出席者には今年もガソリン代を支給しますので多数の参加をお願いします。

▽駐車場も完備しています。

☆祝賀会

平成28年6月21日午後5時15分

4F霞城の間

◎適度な緊張感の話

外国からウナギの稚魚を運ぶ際、途中で稚魚は八割から九割死んでしまうそう。天敵のナマズを一匹入れると二割は食われるが八割はとびつきり元気なのだ。適度な緊張感のなせる技という。

▼山形県の人口一・二万二九五七七人

昨年10月1日を基準にして行われた国勢調査の結果を県が一・二万二九五七七人と公表した。五年前の前回から四万五九六七人（3.93%）の減という。村山が2.3%・最上7.6%・置賜5.2%・庄内5.0%の減少である。市町村別で増加したのは東根市一四五一一人。天童市二二人のみで、あとは全て減少である。

減少数の大きいのは鶴岡市六九九三人・酒田市四八八四人・米沢市三三九一人・上市市二五二人・村山市二一五人と続く。減少率では、鮭川村11.3%・真室川町、小国町が11.2%・西川町、戸沢村が10%となつている。県は「人口は社会、自然動態ともに減少しており、総合戦略に基づく地方創生の取り組みの重要性が再認識された」とコメントしている。一〇〇万人割れはそう遠くない時期に来ており、30年後には八八万人台になるとの予測もある。

▼遊技客は取り戻せるのか

一昨年は一〇〇〇万人を割った。今は団塊の世代の頑張り等でなんとか持ちこたえているが人口の自然減少も将来的に続いていく訳で、遊技客の更なる減少は必至だ。業界はまず今眠っている客層をいかにして揺り起こすかということから始める必要がある。活気があつた20年前には三千万人いたのだからその中からどの位の遊技客を呼び戻せるかがポイント。少子化で数少ない若者対策も大切だ。まずは、休眠客層を戻すための遊技環境整備（低射幸性遊技機への回帰）が急務ではないのか。

●阿吽の呼吸

奈良県東大寺南大門両脇に安置の金剛力士像は、阿「あ」行像と吽「うん」行像の一对があります。「あ」は吐く息を「うん」は吸う息を指します。「阿吽の呼吸」とは呼吸がぴったり合っていることから転じて「互いの微妙な変化や間合いにまでも心が通じ合っていること」を意味します。日頃から良き信頼関係を保つよう心がけることで「阿吽の呼吸」に近づけることが出来ると言われています。



☆マルハン韓 裕社長のインタビューから

（ファミリースメントジャパンの特集から抜粋）

▽2016年の抱負についての質問に対して△業界目線ではなく、お客様目線、社会的な目線で業界を見直すべき時期に来ていると思っております。かつて参加人口が3000万人超と言われていた20年前と比べて、業界全体で2000万人の顧客を失ってしまったわけです。ライトユーザーはもちろん、ヘビーユーザーですら離反していき、このまま高射幸性を追求していけばさらなるファン減少は免れないでしょう。低射幸性遊技機への回帰は、短期的にはホールにとって大きな試練になるかもしれませんが、大きく変わるチャンスでもあります。当社では低射幸性の中で新しいフォーマット、新しいサービスのあり方の開発にチャレンジしていきたいと考えています。

と答えていました。同社長はインタビュー中の多くを「人材育成の必要性」について語っています。特に、「他業界でも通用する人材の増加が、業界が変わった、進化したという一つのバロメーターになるのではないだろうか」とも話しておられました。その中で締めくくりに「今年の抱負」では前記の通り「低射幸性遊技機への挑戦」でありました。業界全体が抱える課題だと確信しておりますので、抜粋させて頂きました。



エンジンを掛け、暖房をしつぱなしの車に置かれるのも大変なんです。車内放置の子供連れは駐車場に入れないでください。

編集後記

3月に入り、雪のニュースも少なくなりました。このまま冬が終われば、各ホールとも除雪費用は浮くのではないかと試算している方も多いのではないかと想像しています。反面、風邪（インフルエンザ）が流行し、今年は大人の方も多く罹患したと聞いております。夜間は決して暖かくなつたわけでもないし、まだまだ寒波も来るし、特に雪に至っては4月になつても20センチぐらい降る年もあります。雪にも風にも油断しないで冬を乗り切りましょう。

熊坂